

2024年3月期 決算に関するQ&A（要旨）

この質疑応答集は決算説明会で、投資家の皆様からいただいた主なご質問をまとめたものです。理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております。

Q1. 「薬屋のひとりごと」のTVアニメ制作委員会からの配分金収入は2023年度の4Qには入っていないという理解でよいか。2024年度計画には「薬屋のひとりごと」の配分金収入は織り込まれているのか。

A 「薬屋のひとりごと」の制作委員会からの配分金収入は2023年度の4Qに含まれていません。2024年度計画に予想できる範囲で織り込んでいます。

Q2. 2024年度が前年度から減益となる理由を、前年の大型作品計上の反動、連結子会社の売却、ハリウッドストライキの影響、としているが、それぞれどれくらいの影響を見積もっているのか。

A 大型作品計上の反動は、利益的にはそれほど大きなインパクトはありません。連結子会社の売却は、連結子会社が損失を出していましたので、利益的にはプラスの影響となります。ハリウッドストライキは、数億円ほどのマイナスで見込んでいます。

Q3. 映像制作技術サービスのグローバルE2E事業は海外において合理化を進めているのか。また、ハリウッドストライキからの回復時期はいつ頃を見込んでいるか。

A グローバルE2E事業の合理化については、人件費の高い米国から、低コスト国であるエジプトのカイロを中心に、作業の移管を行っております。ハリウッドストライキの影響については、ストライキ自体は終息しましたが、それまでコンテンツが制作できなかったのが徐々に回復している状態です。今年上半期で影響は終わって、それ以降は回復すると想定しています。

Q4. 映像システム事業で、2024年度はハイスピードカメラ以外の事業の市況回復が遅れる想定とのことだが、ハイスピードカメラの売上や利益は増える計画なのか。

A ハイスピードカメラは2024年度に新しいモデルを投入する計画です。地域では東南アジア、顧客では自動車メーカーで、強い引き合いをいただいている、売上と利益はおそらく過去最高値を更新する見込みです。

Q5. 東証から求められているPBR向上に向けた取り組みや、施策について教えてほしい。

A PBR向上は意識していて、1倍割れも強く認識しています。資本効率は十分ではないという認識はありますが、事業全般が低いわけではないので、高いものはより成長させ、低いものはそれなりの覚悟を持って取り組む、というのがやるべきことだと考えております。具体的かつ中期的な施策については、来年5月に公表する新しい中期計画で説明したいと思います。

以上